



三芳町長 林孝次

創刊のあいさつ

三芳町では基本構想において男女共同参画社会の促進を位置づけ、町の重要課題の一つとして諸施策を進めています。平成12年には「みよしまち女と男の共同参画プラン」を策定し一層の充実を図り推進しているところです。
このたび創刊となりました情報誌「まなざし」は男女共同参画の視点に立ち、さまざまな情報や町民の皆様の声を通して、男女のパートナーシップを共に考えるための啓発誌として作成しました。皆様の活発な参画とご協力をお願いします。

あなたとパートナーとの関係は老後も大丈夫？ ジェンダーチェックしてみよう！

Yesはいくつありますか？

- *あなたの妻(夫)は、何も言わなくても自分の気持ちを理解してくれている。
<Yes No>
- *妻の仕事は、家事に支障をきたさない程度がよい。
<Yes No>
- *子どもの教育や家庭内の重要なことは父親の意見が優先されるべきだ。
<Yes No>
- *親類や隣近所とのおつき合いは夫の名前でする方がよい。
<Yes No>
- *妻が外出するときは家族に不便をかけないようにするのが当たり前だと思う。
<Yes No>
- *PTAの会長は男性、副会長は女性というのが理想だ。
<Yes No>
- *家族との会話が1日30分以下である。
<Yes No>
- *子どものしつけで男女により差があるのは当然だ。
<Yes No>
- *男性が家事や育児をしていると気の毒に感じる。
<Yes No>
- *夫婦は対等というより、妻が強い！または夫の方がエライと感じる。
<Yes No>

ジェンダーとは

人間が生まれながらの性別(生物学的な性sex)に対して、「女らしさ・男らしさ」や「女の役割・男の役割」など、社会のシステムや文化によって、いつのまにかつくられた性別が、ジェンダー(gender)。社会や文化によってつくられたものは、<変えられるもの>であることを理解することが、男女平等(ジェンダーイコール)な社会を実現するはじめての一步です。

Yesが0~3

老後も自分らしく、パートナーと共に歩いていく準備は万端ですね。しかし、あなたのパートナーのYesの数はいくつですか。もし同じ位ならお二人は理想のカップル！世の中の流れを敏感に感じ取り、いきいきと輝くお二人でしょう。これからは、まわりの方にも伝えていってください。あなたの力を町の男女共同参画推進へと活かしてみませんか？もしあなたのパートナーが、Yesの数が多かったなら、考え方のギャップが少しずつ吹き出し、イライラやストレスで爆発する時がくるかも。そんなことにならない内に、「共に生きる女と男のセミナー」などの講座にパートナーを連れ出してみるのも一つの方法です。

Yesが4~7

あなたは、理想ではわかっているけど、行動はまだまだ女の役割・男の役割にとらわれていますね。これでは老後はお互いに窮屈な生活が待っているかも！共に支え合って心豊かに生活していくには、今さらもうではなく、あなたが変わらなくては社会も変わりません。男女共同参画社会は男性にも女性にとっても生きやすい社会です。思いこみを捨てて、一緒に考えていきましょう。

Yesが8~10

あなたはまさにジェンダーのかたまり。頑固にその生き方を貫くのもいいけれど、パートナーのYesの数がもしあなたと大きく違うなら、老後は寂しいものになるおそれが……。まずは家庭の中から、少しずつ意識を変えてみませんか。そのためにも、パートナーの話を聴くことから始めてみましょう。情報誌を読んだり、講座に参加したり、あなたが変わるチャンスはいっぱいあります。

～男女共同参画社会をめざして～

男女共同参画社会とは、男女の人権が等しく尊重され、社会参加意欲にあふれた女性が自らの選択によっていきいきと活躍でき、男性も家庭や地域で人間らしい生き方を楽しみ、お互いが支え合い、利益も責任も分かち合える、いわば女性と男性のイコール・パートナーシップで築き上げる社会をいいます。

今なぜ、男女共同参画がしきりにいわれているのでしょうか。それは女性自身の願いだけではなく、時代や社会の要請や世界的な潮流でもあります。また、今までの社会システムでは、たちゆかなくなったさまざまな問題の転換として、女性の力を社会が必要としていることもあるでしょう。これまでの社会は男性を中心として、性別による役割分担をすることで、高度経済成長期を支えてきた経過があります。しかしながら、これらの働き方・役割により多くの問題も生じてきました。働き盛りの過労死や自殺、熟年離婚、ドメスティック・バイオレンス、児童虐待、少子化などの問題は男女共、性別により暮らしや生き方を狭めてしまった為の歪みともいわれています。

これからは、女性も男性も、自分らしく個性を発揮でき、共に家庭や地域にかかわれる社会が求められています。今まで、当たり前前の役割や習慣として受けとめていたことも、「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」「男だから」「女だから」と固定的に考えてきたことも、あらためて見直してみませんか。一人ひとりの意識が変われば社会も変わるはず。性別にかかわらずなく、誰もが自分らしくいきいきと輝ける社会に向けて、あなたが、家庭で地域で、できることから始めてみましょう。そんなあなたを応援する情報誌「まなざし」です。女と男がお互いに支えあい、喜びも責任も分かち合える社会をつくるために共に考えていきましょう。

あなたらしく、わたしらしく・・・

女性も男性も自分らしく輝きたい！

